

# 放課後等デイサービス事業所における自己評価結果(公)

討議年月日:令和 6年 11月 12日

公表:令和 6年 11月21日

事業所名 生活塾「春日」

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	○		整理整頓に加え、見やすい収納を工夫。	使用する室内環境について、無駄な物品等無いか、導線の確保は問題無いか適宜検討を行っている。
	2	職員の配置数は適切である	○		ボランティアの受け入れも随時行っている。	少しでも障害福祉の分野に興味を持っていただくよう、様々な人に啓発を行っていく。
	3	事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている	○		実施済み。	
業務改善	4	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	○		常に起案書をベースに改善に係る事業の練り合わせを実施。	「こうしたらどうか、こんなことが出来るといい」といった意見を元に改善目標を設定。行った結果どうだったかの振り返りについては随時ミーティングにて検討している。
	5	保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	○		改善した部分を実際に目にさせていただく機会を随時設けている。	今後も様々な意見の集約に努め、よりよい事業運営に努めていく。
	6	この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している	○		実施済み。	
	7	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている		○	現在実施していない。	今後の検討課題。
	8	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	○		年間研修計画の中で実施している。	専門職研修を毎年行っているが、今後も虐待防止およびBCP関連・感染症対策等の実施に加え、より専門性に特化した内部研修の必要性あり。
適切な支援の提供	9	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成している	○		評価表については、独自のアセスメントシートを導入。	一般的なアセスメントシートでは、子どもの状態像が測りにくい。今後も、評価するシートについては検討の余地あり。
	10	子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	○		実施済。	事業所独自のアセスメントツールに基づき児童について評価を実施している。
	11	活動プログラムの立案をチームで行っている	○		専門職も参加したチームプレイを実施。	今後も専門職(PT・NS)等の意見を聞きながら、総合的に子どもの見立ておよび専門的アプローチを重ねていく。
	12	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	○		年間の行事物を毎月取り入れている。	保護者や関係者の方にも、参加して頂く機会をより設けていく。
	13	平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している	○		当日のスケジュールを見やすいようにボードを使用している。	子どもたちにとって”」かりやすい化”を活動の基本とする。
	14	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成している	○		実施済み。	
	15	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	○		実施済み。	子どもの健康状態の細かなすり合わせは、日によって変化することが多く、漏れの無いよう周知していく。
	16	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	○		実施済み。	支援後、必ずフィードバック(関わりに関して)の時間を今後も継続して設けていく。
	17	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	○		記載内容について意見交換の機会を設けている。	今のところ保護者等の方から具体的にわかりやすいといった意見を頂戴している。今後もわかりやすい、見やすい記録の提案を検討していく。
	18	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している	○		実施済み。	
	19	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせ支援を行っている	○		実施済み。	

関係機関や保護者との連携	20	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	○		今後、その業務を担う人間について会議に同行してもらっている。	担当者会議への出席も、固定化された人だけでなく、すべての職員に対して参加していく機会を設ける。
	21	学校との情報共有(年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等)、連絡調整(送迎時の対応、トラブル発生時の連絡)を適切に行っている	○		実施済み。	
	22	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えている	○		実施済み。	ケアの内容が変更になった際は、遅滞なく指示書の発行を依頼している。
	23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている	○			現在のところ過去の情報に関しては、相談支援専門員が主軸となっている。
	24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等している	○		個別支援計画等の提供	個人情報に配慮し、必要となる情報を提供。どこまで提供するのかは今後の課題でもある。
	25	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	○		年間研修計画の中で実施済み。	
	26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある		○	現在は感染症対策のため機会を設けていない。	感染症の状況が収束したら、機会を設定していく。
	27	(地域自立支援)協議会等へ積極的に参加している	○		実施済み。	
	28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	○		送迎時や、支援会議参加の際。	課題に基づいた具体的なアプローチについて、わかりやすく記載できる書字技術を身につける。
保護者への説明責任等	29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っている	○		ペアトレ研修の案内周知(外部研修)	毎月発行の機関紙にて、親と子のかかわり方の啓発等今後も実施していく。
	30	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	○		実施済み。	契約時において実施済み。
	31	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	○		実施済み。	兄弟等へのかかわりについて、今後検討していく必要がある。(ヤングケアラー等の課題について)
	32	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	○		会員募集の案内発行	
	33	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している	○		丁寧な聞き取りと、スピーディーな対応を心がけている。	有事の際には、正確な情報をもとに、改善(対応)方法等の発信を迅速に行っていく。
	34	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	○		実施済み。	
	35	個人情報に十分注意している	○		実施済み。	
	36	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	○		実施済み。	外国籍の保護者もおられるため、ひらがなやカタカナを用いたの伝達方法も心がけている。
	37	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に関わった事業運営を図っている		○	現在は実施していない。	感染症等の収束が収まったら、大々的に地域住民に啓発を図ってきたい。

非常時等の対応	38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している	○		実施済み。	
	39	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	○		毎月実施。	医療的ケアに必要な物品や、栄養食の確保もお願いしており、今後も継続して行っていく。
	40	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	○		年間研修計画の中で実施している。	不適切な支援の内容や、身体拘束の適正化に向けた研修の機会も組み合わせて実施。
	41	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している	○		実施済み。	
	42	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	○		随時実施。	指示書に基づき対応済。変更のある際は、保護者より随時更新。
	43	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	○		随時実施。	まだヒヤリハット・アクシデントの累積が少ないと思われる。より良い施設運営にしていけるためにも、気付きを形に残し検討していく機会を今後も設けていく。